

# ヒトカラNEWS

Presented by co-creative design studio  
~ hitocolor ~

VOL, 1

「きっと何かが生まれる」  
そんな場を作っていくのが  
ファシリテーター

## まちづくりファシリテーションを学ぶ

ファシリテーション

その場にいる全員が話しやすい環境を作ることによって参加者のモチベーションを高めたり、発想を促進する手法のこと、今回はファシリテーションを体験するとともに、「対話＝（ダイアログ）」と「議論＝（ディベート）」の違いを学んだ。

## 今なぜ、ファシリテーション が必要なのか

世の中は常に変化していて、昨日まで正しかったことが明日正しいとは言えなくなってきました。そんな中、誰にも答えがわからない新しい課題に向き合うために「対話」という姿勢が必要になっていきます。



## ディベート「討論」とダイアログ「対話」の違い

「討論」は自分の意見が正しいという立場で、相手を打ち負かすこと。「対話」は、自分以外の考えを受け入れ、その違いを発見し、改めて「なぜ違うのか」を問うことで、自分だけでは気付かなかった新しい世界にたどり着くこと。



## 答えはひとつじゃない

今ある「知識」と「経験」で一つの答えを導き出すことがよくある。

でも、ひとたび答えが出ると、考えることをやめてしまっている自分がいます。この答えはあくまで自分の知っているものでしかつくりだしていないのに。

「答えはひとつじゃない」と思いながら、日々答えに疑問を持ち、考え続けなければいけません。

自分ひとりで考えるには、限界がある。だったら、みんなの考えを聴いてみれば、いいそうすれば、自分の考えの枠を超えて新しい何かが生まれるのではないだろうか。



## 変化を感じながら

今年は、「新しい生活様式」になり、全員がマスクを着用している。表情が見えないことで、わりにくいこともある。

講座が進んでいくにつれて、話の聴こえ方、話し方、感じ方、考え方が変化していくのを感じ、「対話の力」を実感した。この第1回でこれだけの変化。この講座にはどんな力が隠されているのか。

今回は『発明家的発想でアイデアを生む方法』

## FOCUS ヒトカラ人

### 雰囲気が好きです

(大上祥子さん)

私は松江に住んでいます。外から地元を私見しているから分かることがあって、小さなまちだからこそ、住民と行政の距離が近いからこそできることがあると思います。だから、飯南町には興味があつて、役場の presence を見た時に「楽しそう」と思い、参加しました。

第1回の講座をでは、3期生の皆さんがさまざまな想いで受講されていて、ここには、まちを動かせるような、頑張っている人がたくさんいることを知って、とても刺激的でした。

実際に対話を体験してみると、仕事場などではどうしても討論的な話をしてしまっているなあと。「否定しない」「違いを受け入れる」というルールを決めて対話することで、聴き手、話し手で話が盛り上がり、いい雰囲気、対話の「楽しさ」を実感できました。

今後の講座は、どんどん実践的になっていくと思います。だから、普段の生活から対話を意識していきたいです。また、ヒトカラを通して、「やりたいコト」を見つけたいと思います。

